



中之町幼稚園だより

令和 7 年 7 月 号
港区立中之町幼稚園
園 長 酒井 正美

7月、文月となりました。早い時期から気温の高い日が続いています。水を使った遊び、色水遊びなど、この時期ならではの遊びが展開されています。プール、水遊びも始まりました。水の心地よさや特性、おもしろさを十分に味わっていきたいと思います。



先日、5歳児が色水遊びをしていました。小さなビニール袋に入れた、濃い緑、黄緑など、緑の濃さに差がある色水を見せてくれました。「きれいだね。どうやってつくったの?」と聞くと、「これは、あそこの葉っぱでつくって、これは、あっちの葉っぱでつくったの。」と使った葉やつくった様子を話してくれました。

5歳児はこれまでの経験から、咲き終わった花だけでなく、「葉っぱからも色水ができるのでは」と予想し、どうしたらできるかと方法を考え、試して楽しんでいました。「この葉っぱを使ったよ。」と友達同士で伝えあったり、友達がする様子を見て自分もやってみたりと、色水遊びを楽しんでいました。

色水を見せてくれた幼児の私への用件は、「これを幼稚園の冷蔵(凍)庫で凍らせてほしい」ということでした。もちろん、「どうぞ」と返事をしました。保育後に担任から話を聞くと、つくった色水をとっておいたら、翌日、黒っぽくなってしまったことがあったとのこと。「凍らせておけばきれいな色のままなのでは?」ということからだったそうです。

幼児が「色水をつくりたい」と思い、取り組むような自発的な活動としての遊びでは、幼児の主体性が発揮されます。主体的、能動的に対象に関わる中では、好奇心が育まれ、探索し、物事について思考し、知識を蓄えるための基礎が形成されていきます。また、ものや人との関わりにおける自己表出を通して自我を形成するとともに、自分を取り巻く社会への感覚が養われていきます。

幼稚園で展開される総合的な学びとしての遊びの一場面を紐解くと、幼児のたくさんの学びを見とることができます。これらの学びは、小学校以降の生活や学習において重要な、自ら学ぶ力の基礎となります。

幼稚園の教員は、各学年の幼児にふさわしい生活が展開され、幼児が直接的・具体的な体験を通して学ぶことができるように環境(教材や場所)を準備し、幼児に合わせた援助(言葉掛けや支援)をしています。幼児の心が動くところにこそ、学びがあります。何度も繰り返しやってみる、集中して見ている、目を輝かせて思いを伝えてくる、といった子どもたちの姿を大切にしていきたいと思います。

夏本番となるこの時期、そして夏休みも始まる7月。大人のペースや娯楽といったことも増える時期かもしれませんが、日常に少しの余裕をもち、お子さんが何に心を動かし、何を楽しんでいるのかに心を寄せてみていただければと思います。そして、保護者の皆様も、お子さんと一緒に楽しみ、たくさんの会話をさせていただければと思います。